

政策課題研究 7

気候変動に対応する持続可能な社会にむけた戦略的シナリオに関する研究

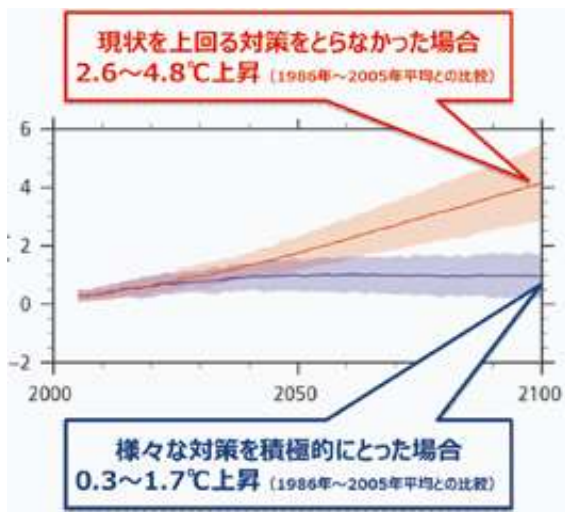
気候変動に注目し、地域特性を踏まえた気候変動の影響情報に基づく脆弱性評価手法を検討します。それをもとに、2050年にCO₂排出量を実質ゼロにした脱炭素社会および気候変動に対応する長期的な目標社会のシナリオを作成します。また、シナリオに基づいた気候変動対策（緩和・適応策）の社会実装のための情報基盤の構築と分かりやすい情報提供、政策支援を行います。

<サブテーマ>

- ・気候変動による影響評価情報に基づく脆弱性の評価
- ・気候変動緩和・適応策形成のための社会実装の支援
- ・気候変動に対応する持続可能な社会のシナリオ作成

【現状における課題】

今後の気温上昇の見込み(IPCC予測)



影響がすでに顕在化



登熟期の高温による白未熟粒の発生など



台風21号によるビニールハウス倒壊 (2018年9月)

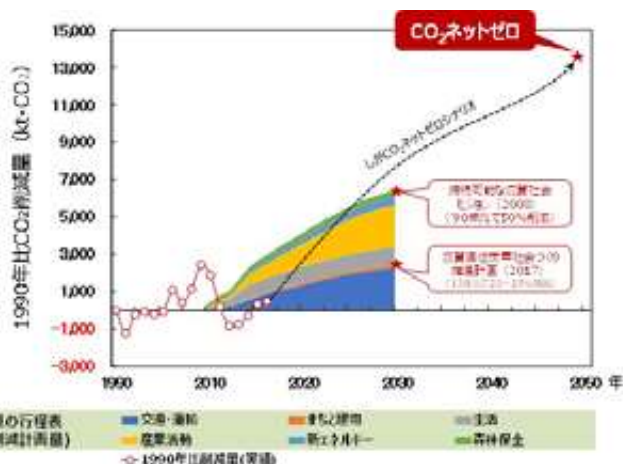


台風21号による浸水 (2017年10月)



晩秋に発生したアオコ (2015年11月・大津港)

2050年しがCO₂ネットゼロ社会の実現が必要



滋賀県のCO₂削減量の現状と目標

IPCCの第5次評価報告書などによると、今後、気候変動リスクが高まることが予測され、2050年頃までにCO₂排出量を実質ゼロにする緩和策に加え、顕在化しつつある気候変動による影響に対する適応策の重要性が増している。

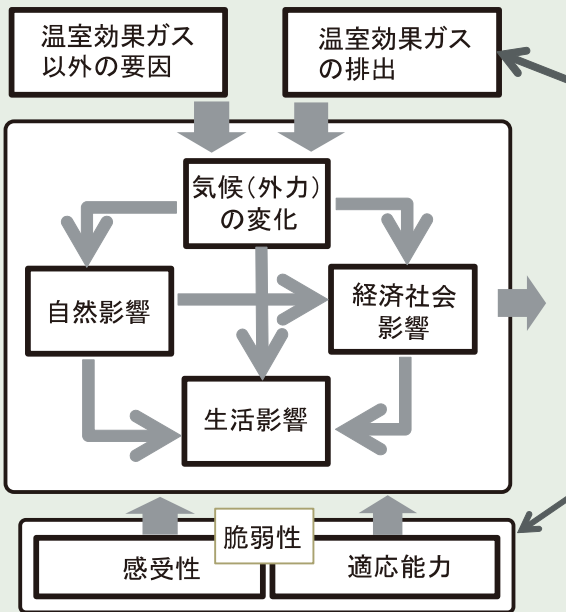
しかし、地域特性を考慮した影響評価の不足やCO₂排出量を実質ゼロにした長期的な目標社会のシナリオの未整備など、脱炭素社会および気候変動に対応する滋賀社会の実現のためには課題が多い。

【課題解決に向けた対応】

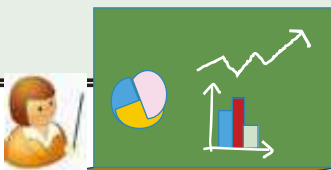
1 情報整理

- 滋賀県における気候の変化、影響、脆弱性等の情報整理

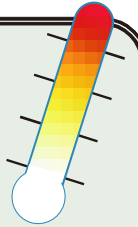
気候変動において何が、どこで、どれくらい危険（リスク）なのか？



- ステークホルダーコミュニケーション手法
- 情報可視化手法、提供手法



どのようにリスクを伝えるのか？



気候変動対策

気候変動の人為的な要因の改善として

緩和策

緩和策を実施したとしても回避できない影響に対して

適応策

2 目標社会のシナリオの作成と社会実装支援

リスクをどれくらい認識しているのか？

- 県民のリスク認知の把握と脆弱性との相互評価
- 緩和・適応のレベルや対応重点項目のシナリオ設定
- 緩和・適応策の整理（順応、予防、社会転換）
- 緩和・適応策の効果の評価



- 緩和・適応策の社会シナリオの作成

リスクを減らすためにはどのような社会を創っていけばよいのか？



- 低炭素社会および気候変動に対応する長期的な目標社会シナリオの作成
- 緩和・適応策の社会実装に向けた情報基盤の構築、政策支援